

第37巻・第11号

昭和28年5月15日第3種郵便物認可

平成元年11月1日(毎月1回1日発行)

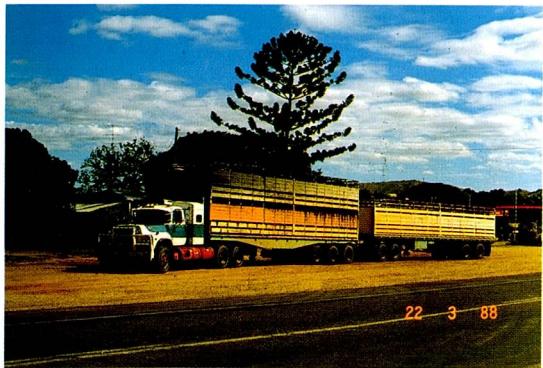
牧草園藝

11

1989

〈写真で見る〉オーストラリアの草地と牧草研究

(26頁より)



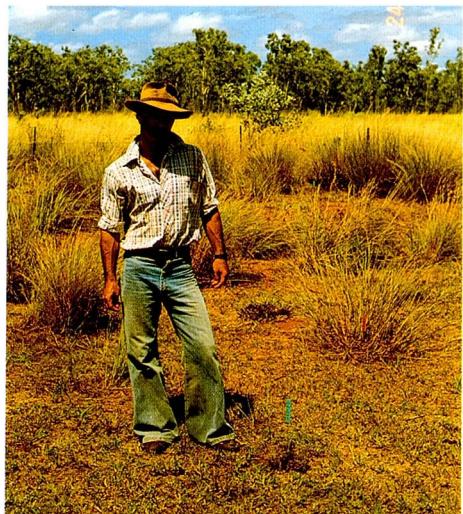
オーストラリア北部の名物、ロードトレイン。3両以上貨車をつないでいるトラックもある。これは2階建の牛を運ぶ貨車で、1万ha以上もある牧草地の牧区から牧区への移動を行なっている途中。



ダーウィンからキャサリーンまで300kmの車窓の風景はほぼこのようなものであった。ここは熱帯圏に属し、タウンズビルに比べて降雨が多いため、生産性は高い草地のようであった。しかし、内陸部に近づくにつれ、降雨量は少なくなり、終わりには100mm以下となる。植物はユーカリ、下草はスペアグラスや野生ソルガムが主。土のかたまりは2m以上の高さの蟻塚(シロアリ)。シロアリも100種を超えて、種ごとの蟻塚の大きさや形が異なるとのことであった。



キャサリーン試験地で放牧用に用いられている肉用牛(ブラーマン)。



スペアグラスの個体選抜を行なっているところ。この研究者の姿は西部劇そのもの。ラジオからはカントリーばかり流れていた。スペアグラスと野生ソルガムはこの乾季と雨季が顕著な気象条件に最も適応した草種と考えられている。しかし、収量も低く飼料価値も高いとは思えなかった。



CSIRO キャサリーン試験地。ここではソルガムの育種、スペアグラスの育種、放牧試験などの研究が行われていた。



キャサリーン試験地の放牧地。バッフェルグラスが主体。小さな蟻塚が多数見える。

(表紙③につづく)